



三潴保育園 園だより



February 2024

真冬の冷たい風にも負けず、元気いっぱい外遊びを楽しむ子ども達。「走ったら温かくなってきた」と着ていた上着を脱いでしまうほど体をいっぱい動かし戸外遊びを堪能しています。

先日、沢山雪が降り、子ども達は大喜び。雨から少しずつ粒が大きくなり「雪が降ってきた」と窓から外をのぞいていました。また、雪を初めて見たもも組の子ども達はおやつどころではなく雨とは違う真っ白な景色にくぎ付け。「先生、ゆき？」と雨ではない何かを尋ねる様子は可愛らしく、「そうだよ」と話すと「ゆき！！」という言葉が伝染し、「ゆき、降ってきたね～」と嬉しそうに話していました。とはいえ、雪って何だろうとまだ未知の世界の子ども達。本物を見るために玄関まで行ってみました。降ってきた雪は時折ふわふわと子ども達の所まで届き、手を伸ばして捕まえようとするや白色から溶けてなくなってしまいます。「あれ？ないなった」と。今度は保育者が外に出て洋服に付いた雪を届けてもあっという間に溶けてなくなってしまいます。これまた「あれ、なくなったね」となかなか手に取ることができない実態が見えない雪にとても不思議そうな様子でした。その後も、屋根や木に積もる様子を観察し、お迎えが来る度に「雪!!」と伝えるほど大興奮の子ども達でした。翌朝の雪景色にもきっとかじりつくほど大喜びだったのではないかなと思います。

さて、2月3日は節分。園では明日、豆まきをします。「鬼」って何だろう。どんな顔をしているんだろう。本当に怖い？優しい鬼もいるんじゃない？と子ども達の頭の中では色々な想像が膨らみ、一人ひとり自分が思う鬼をイメージし豆まきの制作しているようです。お家に持ち帰りますので一つ一つ聞いてみると面白い答えが返ってくるかもしれないですね。「邪気を追い払い、幸せを呼び込む」願いを込めて豆まきを楽しみたいですね。

そして、2月4日(日)はゆり・すみれ組は筑後地区器楽合奏発表会に参加します。当日は、胸を張って発表してくれることと思います。ぜひ、エールを送っていただけたらと思います。

名頭園 弥生



クラス目標 ~1か月大切にしたいこと~

たんぽぽ組

- ・空気や風邪の冷たさを肌で感じ、氷・雪などに触れて冬の自然を楽しむ。
- ・食事や衣服の着脱など身の回りのことを保育者と一緒に行いながら、できる喜びを感じる。

もも組

- ・手先、指先を使った制作遊びや感触遊びを楽しむ。
- ・身の回りのことを自分で出来ることに喜びを感じ積極的に行う。

ばら組

- ・身の回りのことを自分で行き、達成感を味わう。
- ・身近な自然に触れながら、自分の発見したことを保育者や友達に伝え共有しようとする。

うめ組

- ・活動の準備や身の回りの支度に意欲的に取り組む。
- ・自分達の目標を達成するために、計画した活動に積極的に取り組む。また、達成するまでの過程を楽しむ。

すみれ組

- ・日本の文化に触れ、その由来や今と昔の生活の違いなどに関心を持つ。
- ・次年度に向けて、身の回りのことを意識して行う。

ゆり組

- ・活動の中で一つの目的に向かい、意見を出し合い、協力して作り上げる達成感や充実感を味わう。
- ・友達と互いの良さを認め合いながら、遊びや生活を進める楽しさを味わう。

2月の行事予定

- 2日(金) 豆まき
- 4日(日) 器楽合奏発表会
ゆり・すみれ組
【シティプラザ久留米】
- 7日(水) 観劇 劇団バク
15時30分~16時30分
- 13日(火) お弁当の日
- 15日(木) 避難訓練
- 28日(水) お誕生会
- 26日(月) ~29日(木) 身体測定

※13日(火)~27日(火) 制服採寸後日、詳細を含め手紙を配布いたします。必ずご確認ください。

1つの曲が仕上がるまで

名頭園 弥生

2月4日(日)は筑後地区器楽合奏発表会。

ゆり組・すみれ組総勢51名の子ども達がシティプラザ留米グランドホールで演奏をします。演奏曲は『宇宙戦艦ヤマト』。子どもから大人まで多くの方に愛される名曲です。すみれ組は、初めてメロディオンという鍵盤楽器、ゆり組はすみれ組をリードするメロディオン、打楽器と一人ひとり大事な役割を持って演奏します。いよいよ本番を迎えるわけですが、これまでの歩みを紹介させていただこうと思います。

9月～10月頃、運動会の前からスタートしています。まずは、身体を使ったリズム遊びや歌遊びを通し、音符の長さや息の使い方など、演奏時に必要な音符の長さを身につけていきます。その中で、曲を作るためにはドやレなど音階というものがあり、長い音符・短い音符・休符があることを知っていきます。基礎を終えたのち、ようやくメロディオンに触れていきます。

すみれ組は、ドはどこ？というところからスタートです。ドは赤・ミは緑と貼られたシールに指をあて、鍵盤を押してみます。しかし、押しただけでは音は出ません。ホースに息を入れただけでも音は出ません。そう、押しながら息を入れて初めて「ドー」という音が鳴るのです。子ども達はこの音が鳴った瞬間だけで目をキラキラさせるんです。だって、初めて「ド」の音を鳴らすことができたから。もっともっとといろんな音を出し、改めてドレミの音階を知っていくのです。少しずつ指使いを覚えてもらいながら、ドレミファソ、ソファミレドと指の運びがスムーズにできるようになります。もちろんゆり組も同じように基礎を積み重ねていきます。



本格的な練習は11月。メロディオンは小グループに分かれ、自分のパートを練習します。すみれ組は3～4名、ゆり組は6名に対し保育者1名担当をし、練習していきます。メロディオンは、1日で進めるのは2小節から3小節。音階を歌って覚え、指使いを覚えてもらい、実際に吹いてみる。たったこれだけと思うかもしれませんが、実際に吹いてみたら、自分が思っているようにはならず、子ども達にはとても難しいこと。この覚えてもらった3つの事がすべて一致しなければ、弾けないのです。子ども達は、練習の中で上手いかないけないのなぜか考えながら、自身で納得しながら覚え、少しずつ演奏できる小節数が増えていくのです。楽器はひとつの楽器に保育者が1名担当し、それぞれの楽器の音色、パチの持ち方、叩き方など基礎を習得していきます。音階がある楽器、叩く場所によって音色が変わる楽器、電子楽器など様々です。一つ一つ違いがあるということは、誰一人として同じ音色やリズムがないことを意味します。責任をもって覚えていかないと演奏ができないのです。保育者と練習する中で、メロディー、音を支えるハーモニー、リズムを刻むなど自分の役割を知っていきます。11月から1月上旬までは、それぞれのパートで分かれ、一人ひとりが保育者と一生懸命自分の音と向き合っていくのです。



いよいよ1月。少しずつ合奏が始まります。メロディオンは全部で3パートに分かれています。実際に合わせてみると、今まで弾いてきたことのない音が聴こえ戸惑います。自分以外の音があることを知り、音の交わりを感じ、音作りを楽しんでいきます。楽器は、さらに戸惑い混乱しますが、自分と同じように弾く仲間を見つたり誰かがメロディーを持っているのか、自分がどのくらいの強さで弾くのかを知らながら、音が合わさっていくのを肌で感じていきます。何度か繰り返していくとようやく音が合わさり、曲に聞こえていきます。つまり、自身の練習から周りの音と合わせる練習へとステップアップしていくのです。



メロディオン・楽器のそれぞれの練習が約1週間続き、全員で合奏してみます。もちろん、ビックリするほど合いません。なぜなら、メロディオンはメロディオン、楽器は楽器で各々進んでいくから。ここでまた、楽器がどんな音を奏でているのか、実際に見て、聴いて、自分達の役割について知っていくのです。これもまた、小さな単位で進め、少しずつ演奏できる範囲を広げます。合奏を始めて1週間。何度も演奏が繋がらないということを経験した子ども達でしたが、ついに最初から最後まで止まらずに演奏できた時がありました。子ども達一人ひとりがやり切った顔。「みんな初めて最後までできたね。先生ビックリした」と話すと、「やったー」と満面の笑顔がいっぱい咲きました。その日を境に、音作りの楽しさを感じ、演奏が通ることが増えました。そして、日課となったのは、今日で最後までできたのは何回目と数えること。一度できたという経験が喜びとなった瞬間だったのだらうと思います。それから2週間余り、さらに強弱、抑揚、躍動感をつける細かい練習を行い、いよいよ本番を迎えようとしているのです。

ここまで来るのに、子ども達は沢山の困難にぶつかり、頭をくしゃくしゃと抱え込んだり、できなかったところをできるようにならろうと自身で練習したりと様々な思いを抱え、取り組んできました。私たちは、そんな子ども達と同じように悩み、一人ひとりに合った練習を模索しながら取り組んできました。ここまで来れるのは子ども達一人ひとりの頑張ろうという気持ちがあったからこそ。そんな子ども達を支えながら本番を迎えたいと思っています。

ぜひ、発表会の日には子ども達を温かく見守り、一人ひとり頑張っている子ども達に大きな拍手を送っていただけたらと思います。そして、終わった後は、一人ひとりの思いを受け止め、精いっぱい褒めていただけたらと思います。

